

農民の自立を支援する

プネに近いムルシ地区の4村は、農民が村の発展を自分たちで計画する参加型アプローチのモデル例です。JICAとICAの支援を受けて農民たちは農業組合を形成し、それにより、水、牛乳、そして現金収入が村にもたらされました。

プネに近いムルシ地区のカンボリ村に住む、26歳大学卒のサンディーブ・カネカールさんは、乳牛への給餌で忙しい日々を送っています。2年前にたった2頭の水牛で酪農を始めましたが、今では25頭以上を飼育しています。

サンディーブさんに倣って、多くのカンボリ村の住民が乳牛を家で飼うようになりました。彼らは、Vithal Rukmini Dairy Societyという協同組合を組織し、1日に150リットル以上の牛乳を集めてプネの大手の乳製品製造業者に卸しています。

収入は悪くなく、利益を得ることができますので、サンディーブさんが都市での仕事探しよりも村での酪農の方が良いと言うのも驚きではありません。

サンディーブさんの例は、若者の都市への移住が当たり前の状況においては、新しい変化です。こういった変化は、今までムルシ地区の村々で活動を行ってきた、非営利組織であるICA Indiaの地道な努力の成果です。

JICAの支援を受けて、ICAはムルシ地区で農村開発事業を行っており、上記のような協同組合の形成を促進しています。

2008年より、マハラシュトラ州プネ県ムルシ地区の4村（カンボリ、カタルカダック、アンダーレ、ジャワル）において、JICA IndiaはICA Japanと共に「貧困削減のための農村開発事業」を実施しています。

この事業の目的は、灌漑やアグロフォレストリーの技術移転を通じて耕作に適した土地を広げ、生産性を向上させること、また、酪農を導入することで農民の収入向上を促進することにあります。乳牛を飼っている世帯には、代替燃料としてバイオガスの導入を促進し、酪農と燃料生産を組み合わせた事業を行っています。

農地に水を引く

西ガート山脈に属するムルシ地区は岩の多い丘陵地で、地下水も多くありません。農業のための十分な水を確保できないことが、この地区の農民が長い間直面してきた問題でした。

政府は、カンボリ村とカタルカダック村に2つのダムを建設しましたが、農民はその恩恵を受けていませんでした。農地は村の高い場所にあり、ダムから水を取ることが難しかったからです。農業はモンスーンに依存せざるを得ず、年に1種類の作物しか生産できませんでした。

農業の生産性、利益の低さや難しさのため、ほとんどの若者は都市へ行かざるを得ませんでした。

しかし、今年は状況が変化しました。多くの農地で二期作が行われ、生産効率が改善しました。JICA が支援を行う ICA のプロジェクトにおいて、カタルカダック村とカンボリ村に灌漑システムが整備されたことにより、この新しい変化が起きました。農地には水がもたらされ、1 年に 2 度の収穫で農民たちは忙しくなりました。



カタルカダック村の灌漑設備 写真（左）水に浮かべたモーターで水を汲み上げる
写真（中央）配水管を通して水が農地へ供給される 写真（右）配水管の水圧をテストするタナジさん（写真提供：OWSA）

カタルカダック村のゴパール・ラゲー・マルポテさんは、昨年、二期作を行いました。灌漑用水によって可能性が広がったと語るマルポテさんは、灌漑設備に満足しているようです。

「十分な水源があり、その水を農地に引くことができるので、今期はサトウキビを育てようと思っています。水が確保できるのであれば、サトウキビは利益の多い作物です。マーケットでは 1 ヘクタールあたりの作物が 3,000 ルピーで取引されます。手間が少なく、利益が多いのです。」



次期の作物について語る、ゴパール・ラゲー・マルポテさん

ゴパールさんのように、カタルカダック村、カンボリ村のそれぞれ 70 名ほどの農民が、ICA の整備した灌漑施設によって利益を得ています。同時に、農業による収入が向上した村に、都市から若者が戻ってくるという現象が少しずつ起こっています。

カンボリ村のダンデ・マルポテさんは、プロジェクトの間接的な利益について語ります。「灌漑施設を利用して、二期作でトウジンビエを育てることが可能になり、前年に比べて収穫が 4 倍になりました。収入が増えたので、娘を大学に通わせることができるようになりましたが、これは以前の状況では考えられませんでした。」

この灌漑計画は、ICA によって敷設された配水管によって農地に水を供給する、配水システムの整備です。水は高圧モーターでダムから汲み上げられ、配水管網を通して農地に供給されます。農民は、配水の需要を事前に灌漑ポンプの管理者に伝え、管理者はそれによって供給のスケジュールを決定します。水の供給を受けた農民は 1 時間に 40 ルピーを支払い、その収入でポンプ管理者の賃金と灌漑設備のメンテナンス費が賄われています。

参加型アプローチ

ICA は参加型アプローチの手法を取っているため、ステークホルダーはコミュニティの発展について自分たちで計画し、他の村でも実行可能なプロジェクトモデルを作ることができます。

ICA の参加型計画立案アプローチは、Technology of Participation (ToP)に基づいていますが、ToP は、「地域コミュニティにはそれぞれの知恵や知識がある」という前提に立った考え方です。地域の現状理解のためにコミュニティに存在する知恵を生かすことによって、人々の共通理解が得られ、エンパワメントや発展に繋がるのです。

ICA は、この手法の実践によってコミュニティに変化が起きるという経験をしています。ムルシ地区ではこの参加型アプローチの成果が既に出てきており、カタルカダック村の灌漑プロジェクトにおける農民のオーナーシップにそれが現れています。多くの農民が自主的に配水管敷設作業に加わりましたが、そういった当事者意識は ICA によるファシリテートによって形成されました。

このように、このプロジェクトは施設を建設するだけでなく、彼らが村に必要なものを考え、それを実行するための能力を鍛えることで、コミュニティ主体の変化を起こすためのものなのです。

また、プロジェクトでは、持続可能な農業と経済面でのエンパワメント促進のため、継続的に農業や酪農の能力強化研修を行っています。農民たちは農業専門家との交流の中で、正方形植（4ステップ式田植え法）のような、新しい知識を吸収しています。

研修に参加したシャンカール・マルポテさんは、「唐辛子、ナス、トマト、きゅうりといった野菜を7種類植えました。3ヶ月のたった1シーズンで、きゅうりだけで12,000ルピーの利益が出ました。専門家の指導は非常に役立ちました。」と語ります。

酪農プログラムでは、ICA は2009年に酪農組合の組織化をファシリテートしました。組合はムンシ地区の4村のメンバーで構成されています。このJICAプロジェクトでは、農民が水牛を購入するための資金を支援したり、組合への参加を促したりしました。

毎日、組合メンバーが村の牛乳集荷センターへ牛乳を持ち込みます。牛乳の脂肪含有率がチェックされ、それによって牛乳の価格が決められます。4村から1日に平均150リットルの牛乳が集められ、プネの乳製品製造業者へ売却されます。カンボリ村のセンターには冷蔵設備があります。

牛乳の生産が農民に経済的な利益をもたらすと同時に、牛の排泄物からは家庭内で消費する燃料と肥料が得られます。



カタルカダック村の牛乳集荷センターの記録

料理に用いる燃料として、安全で便利なバイオガスの利用を促進するため、ICA は農民の家庭へのバイオガス設備設置を支援しています。ムンシ地区には、現在までに 16 基のバイオガス設備が建設されました。



牛糞燃料によるバイオガスを使って料理をするウシャ・バイ・カネカールさん

この代替燃料によって恩恵を受けたのは女性たちです。薪を集めるという骨の折れる仕事が減っただけではなく、煙のない台所で健康で清潔に作業ができるようになったのです。

「以前は、料理用の薪を拾いに朝 6 時に家を出て、10 時に家に戻って来ていましたが、今はその必要はありません。子どもたちが学校へ行く準備をしたりして、より多くの時間を一緒に過ごせる

ようになりました。また、料理も早く作れるようになって喜んで

います。」と、バイオガスを導入した家庭の 4 児の母であるウシャ・バイ・カネカールさんは話します。

ICA によって実施された JICA プログラムによって、ムルシ地区の住民に様々な面での利益がありました。施設の整備を別にしても、プロジェクトによってメンバーのリーダーシップや参加意識が育ちました。

ICA に 12 年間関わっている、イェシュワント・マルポテさんは、「コミュニティーを発展させる動きを生み出すには、それぞれの個人の成長が不可欠です。」と主張します。

JICA プロジェクトの受益者—酪農組合や灌漑組合、その他の農民たち—は、ICA によってファシリテートされる例会に出席します。会議では、村の発展のための計画や提案が議論され、参加者によって方策が決定されます。

こういった合意は、ムルシ地区の組合組織や個々のメンバーの成功にとって、とても大きな意味を持ちます。

ムルシ地区の人々に、参加によるエンパワメントを促す ICA-JICA による農村開発プロジェクトは、「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えよ」という諺の実践です。

ICA India の代表であるシャンカール・ジャーダヴさんは、ICA の経験を総括して話してくれました。「労働者たちは自身の農地で働くために村に戻るようになりました。バイオガスは村の生活様式を変えています。そして、私たちがファシリテートするリーダーシップ研修や技術移転は、これらの変化の持続を支えます。ICA は長い間、住民と共に彼ら自身の発展のために活動してきましたが、JICA の支援によって、今までの私たちの取り組みがさらに発展しています。